

■ 新潟市事業仕分け外部評価会議（8/29（日）第1会場）

○西堀地下駐車場（駐車場事業会計）

（コーディネーター）

では、最後の事業、西堀地下駐車場（駐車場事業会計）の仕分けを始めたいと思います。では、ご説明をよろしく願います。

（説明者）

それでは、事業番号1-15「西堀地下駐車場（駐車場事業会計）」についてご説明申し上げます。西堀地下駐車場の事業そのものの経緯でございますが、昭和40年代後半に古町地区の駐車場不足解消と都市機能強化のため駐車場整備が計画され、第三セクターであります新潟地下開発株式会社によって、昭和51年に整備、開業した駐車場でございます。地下駐車場は、先ほど話題になりました地下街西堀ローサとともに、新潟地下開発株式会社が管理運営しておりましたけれども、建設に要した借入金と同社の経営を圧迫し、駐車場業務継続に支障が出たため、平成13年10月に公共駐車場として安定的に運営し、なおかつ中心市街地を維持活性化する目的で、本市が取得いたしました。平成13年に駐車場整備事業債により取得しており、取得額は19億5,900万円です。償還期間は平成33年までの20年間で、間もなく平成22年度末の残高は13億3,500万円でございます。

駐車場の施設概要についてですが、市道、西堀通の地下2階に二段式機械駐車場方式、一部は平面自走式ということで、収容台数は288台となっております。駐車場の利用実績でございますが、取得した平成13年度の実績は、年間22万1,000台、約22万台の車が収容されておりました。平成21年度の年間の実績ですが、約16万2,000台となっております。平成21年度の事業収支についてでございますが、収入としては駐車場使用料として、1億38万9,000円、その他の目的外使用料等を含めまして、1億50万6,000円になってございます。支出、いわゆる管理費についてでございますが、1億264万1,000円、管理費のほかには公債費、先ほどの取得した駐車場事業債の償還金になりますが、1億3,427万7,000円。これら合計で2億3,691万8,000円になってございます。駐車場の管理委託につきましては、平成21年度から5年間、新潟駐車場株式会社を指定管理者として指定しているところでございます。

今後も適性で安全な管理に努め、来街者の利便性を確保するとともに、古町地区の商店街や近隣の民間駐車場との連携により、古町地区の活性化に貢献していきたいと思っております。

（コーディネーター）

では、作業チームのほうからお願いします。

（作業チーム）

対象事業として選定した理由、考えられる論点を述べさせていただきます。駐車場事業

を市で実施する必要は本当にあるのか。稼働状況は良好か、本当に続ける必要があるか。利用の増加に向けた方策をどのように行っているのか。利用台数が増加する見込みはあるか。まちなか再生との位置づけをどのように考えているのか。

(コーディネーター)

ありがとうございます。では、ご質問、ご意見、ご提案、その前に質問か意見か提案かということをはっきり言っていただければと思います。

(外部評価委員)

私の場合、ほとんど意見になってしまうみたいなのですが、基本的に駐車場についても見てきたのですけれども、今、二層式というのでしょうか、機械でやっていて、先ほど言った時間帯でいきますと、日曜日の11時から11時半のときには、6番館あたりの駐車場はほとんどなし。7番館のところはそこそこだけれども、上段は空いていました。同じ日曜日の1時半から2時は、7番館はそこそこ上段の駐車スペースに入っていましたけれども、6番館は全くなしでした。つまりかなり空きがあるということです。月曜日も大体似たようなものだということでご理解ください。つまり、稼働率といいますか、それについてはかなり落ちてきていると思うのですが、そういう中で駐車場経営を続けるということはどのように考えておられるのか、それから、近隣の駐車場が開業当初に比べると倍以上くらいには増えていると思うのです。そういう中で駐車場経営を続けられるかどうか。続けて言いますが、駐車場に替わることを考えるか、駐車場を続けるなら、二層式にやるからいわゆる人手がいるのであって、一段だけであれば、完全に機械管理に変えられるのです。そういうことも踏まえてさまざまな検討をされているかどうか。飲食店に変える気持ちはあるかどうか。

(説明者)

まず、一番分かりやすいところで、駐車場を飲食店に変えるつもりはないですが、実際に委員がおっしゃった現場に行かれたというのは、8月ですか。実は、大和の閉店前後で、先ほどのまちなか情報ひろばについてはそう高い低いはないのですけれども、駐車場については路面店といいますか、商店街の客数としては、大分数字の高い低いが出て聞いております。特に、駐車場については7月に入ってどうなのかと言いますと、相当前年を割れておりまして、新潟市の古町の界隈の駐車所の経営をされている方に、いろいろどのような状況でしょうかというように確認しましたところ、6月の大和さんの閉店セールの際に、どっと人が来まして、今まであれば7月にお金を使った人が6月にお金を使っているということもあって、7月、もしくは8月の天候が暑いということもあるのでしょうけれども、7月、8月については例年よりも調子が悪いというようなことが、うちの駐車場だけではなくて、古町界隈全体の駐車場の感触としてあるようでございました。多分そういった事情があるので、より一層稼働率が低く感じられたのかと感じております。

こういった民間駐車場が相当数増えてきている中で、行政として駐車場経営を続けるということについてですけれども、例えば民間駐車場にはない、我々の駐車場には一つの売

りというものがあって、売れないところもいっぱいあるのですけれども、先ほども申し上げましたけれども、雨にぬれずに買い物ができる駐車場というのは、西堀の地下駐車場だけということもあり、年間十数万台の車を留めていただいていますけれども、直接話を聞いたことはないのですけれども、その中には回数券を使って利用して下さったりですとか、そういった根強いファンの方もいらっしゃるということもありますし、経営問題だけで地下駐車場を廃止していいのかどうかという議論というのは、委員がおっしゃるようにやるべきことをやって、それでもだめならということだと思っております。委員の提案にもございましたけれども、例えば今、二層式で機械管理をしている。そうすることによって、機械を操作する人だとか、そこは少し細長い駐車場になっていますので、車を誘導する人材というものも当然必要になってきていまして、そういったものを管理手法を見直すことによって、経費の削減といえますか、コストの削減につながるということはおもったもだと思いますので、その辺、内々にと申しますか、市を挙げて検討ということではなくて、部内、課内の中で検討は進めておりますので、その検討結果を踏まえて、方向性を出していきたいと考えております。

(外部評価委員)

二つほど質問させていただきます。新潟市のほうで指定管理者の制度を引いていますよね。1億円くらいの委託をされていると。年間駐車場の使用収入が7,800万円くらいあると。けれども、駐車場の使用料収入というのは、年々右肩下がりで、どんどん下がっていると。そういった中で、指定管理費は収入よりもかなり多めに取られて渡されていると。こういったところについて、先ほどの委員の話と被るところがあるのですけれども、実際にこれは収入が入ってきているものと出ているものが違う。逆に言うと出ていくほうが多い。もう少し収入の範囲でやっていけないのか。こういった指定管理者等の協議というのはされたことがあるのかどうかということからご質問したいと思います。お願いします。

(説明者)

指定管理者に限らず、ここの業務については、かねてから委託業務ということで、民間の方に管理をしていただいております。そういった中で、今、委員がおっしゃるように、1億円相当の管理費がかかることについて、これは高いのか、安いのか。適正なのか、適正ではないのかというような検証につきましては、それは常に契約行為でございますので、契約を結ぶために我々としては検証しているつもりでございます。中には、今ほどの委員のご質問にお答えした中に出てまいりましたけれども、人件費と言われている部分というのが結構ございます。もう一つは、光熱水費ですとか、そういった部分もございますので、もう一つ大きなところが施設の設備の改修などがあるのです。例えば機械に不具合があるとか、入出庫に使うスロープに不具合があるとか、そういった不具合等がございます。駐車場の管理をしている立場として、安全で安心に使っていただけるという意味合いでは、年によって改修箇所が違いますが、金額というのはまちまちなのです。高くな

ったり、安くなったり、また少し高くなったり、安くなったりということは出てきますので、そういった意味での検証はしております。

(外部評価委員)

検証されているということなのですが、右肩下がりで年々収入が下がってきているというのは事実なのです。そうすると、例えば18万台ということなのですが、たしか今、現実には値段を下げられていますよね。昨年よりも値段を下げられているのではないのでしょうか。なぜかという、私も利用したことがあるから、現実に値段が違うぞと思ってすぐ分かったのですが、値段が下がったことは非常にありがたいことだと思うのですが、見込まれる台数からすれば、来年は間違いなく収入が下がるのです。それなのに、指定管理者は先ほど言われたような事情はあるにしても、指定管理者を選ぶところの決定プロセスを改めたりとか、そういったことを実際にしていかないと、これこそ本当にどんどん収入は下がっていくけれども、出ていくものは出ていきますよと。そうすると、せっかく存立の意図があっても理解されなくなっていくのではないかという危惧があるのです。これはもう簡単に言うと意見になってしまっているのですが、こういったところをもう少し考えていただきたいということがあります。確かに指定管理者はどういった選定をされているのかといったところは伺いところなのですが、要望としては収入が下がってきているという現実にはできるだけマッチさせた運営にしていっていただきたいということなのです。

(コーディネーター)

意見要望ということで。

(外部評価委員)

私も久しぶりに地下に入れてみたのですが、安全安心ということでは、ご丁寧に車の私の車1台に対して3人の方が誘導してくださいました。ほかに車は1台も出入りしていなかったものですから、そういうことが大分前に使ったときも2人くらいの方が丁寧に誘導してくださいました。そういう意味で人件費というものが、将来的に2階を1階にするにしても、機械を操作しないことによる人件費削減ということを考えるにしても、現段階でも削減できるのではないかと混雑時と普通のとくと同じような人員配置ではもったいないなと感じた次第です。

ですから、意見ですが、現段階から削減の方策をもう少し真剣に考えていただきたいということと、それからやはり上の二層で2階建てで車が入っているところは1か所もありませんでした。ですから、そういった意味で人の削減もできるのではないかと思います。

もっと気候的なことを考えると冬などはいいのですが、市民の人が安く利用できるようなPRももう少し、ほかの駐車場業者へしわ寄せになるかもしれないのですが、やはり税金ということでやっているのであれば、市民に対して少しでも安く利用できるようなPRも必要ではないかと思えます。

(外部評価委員)

大和撤退後の影響というものは予想以上に大きいと思うのです。ちょうどこの駐車場の真上にある地上の駐車場は、それまで平日は数名の方を雇っていたのですが、今は1人になってしまいました。ほとんどがらみみたいな状況になって、非常に激変したという状況です。ちょうど西堀の地下駐車場の真上にある路面のタワー式の駐車場ですけれども。ですから、これはじわじわ効いてくるなという感じがするのですが、ただ、先ほどの委員がお話になったように、この駐車場の二段式であるという部分のコストの問題はあるにせよ、私は先ほどの仕分けでもお話ししたことと同じことなのですが、市が中心市街地を守るということで積極的な姿勢を見せると。これこそがまさに市の仕事であると思うのです。

中心市街地をきちんと活性化させて、そこから市のイメージを上げて、他の地域にそれを波及させていくということが、まさに行政の仕事だと思いますから、若干今の目先のことで考えていくと、これはどんどんコストをカットしていかなければいけないという話になるのですが、そうではなくてまた市街地にどうやって人を呼び戻すか。それについて大きな計画を立てて、私も自分なりにいろいろな空想して、LRTを走らせてどうだといろいろなことも考えてもいるのですが、ただやはり道路社会で新潟というのは郊外にでき上がってきていますから、郊外の人になぜ古町に行かないかと聞きますと、栗の木バイパスが渋滞していると。あそこであれだけまいてしまうから、どうしても手前の亀田のほうに行ってしまうとか、そういう話がありますので、これは今の時代環境に反するかもしれないませんが、道路をぐっと思い切りさらに投資して持ってくるとか、本当に大胆な、もっと上位の計画から変えて、市として大和の再開発もこういう形にしますということをどんどん提示して進めていかないと、このままいくとじり貧になってしまいます。気がつくとも駐車場も耐用年数過ぎて、人も入らなくなり、そして西堀ローサも空いてしまうと。将来的にどんどん人口が減ってきますから、下手をするとスラム化していくということもあり得るので、ここで何らかの大きな手を打たないとだめな時期に来ているのではないかと思います。

ただ、短期的には商業施設は生かしたい気はします。できるだけコストを下げるのであれば、他の委員のおっしゃったように機械式の部分を、もしかしたら機械を外すほうがコストが安いのであれば外してしまっ、それでもだめなら飲食店に切り替えるとか、いろいろな工夫、飲み屋街を作ってみるとか、丸の内の八重洲地下街なども飲み屋などがいっぱいあつたりしますから、そういう工夫をして市として思い切った姿勢を見せるという部分、それによって民間がついてくるという部分もあると思いますので、もう一度大きな方向性から変えたほうがいいのではないかと思います。

(外部評価委員)

この駐車場は存在することによって、市が幾ら負担しているかということを考えてください。計算すると分かりますよね、毎年 4,000 万円です。これは開業以来駐車場経営はマイナスだったのです。あるとき新潟地下開発が立ち行かなくなって、市が買い取ったとい

うことが経緯だと聞いております。今、この駐車場がなくても、周りに駐車場がいっぱいあるのですので、市民は何ら迷惑を被らない。つまり 4,000 万円の性格は何かというと雨宿り代なのです。雨宿り代に税金をこんなに払うのかということを開クにして、市民の賛同を得るなら、私はOKだと思います。商店街を守るということは大いに結構なのです。それは否定しません。ただ、これだけの金がかかっているの、ご了解くださいと。皆様の雨宿りに 4,000 万円を使わせてもらっていますからということであれば、それはそれなりに効果はあると思います。

(外部評価委員)

今、言おうかなと思っていたら、全部言われてしまいました。事業の目的にもともとが民間の新潟地下開発さんがされていたものが 13 年から市に行ったということで、それが目的にはっきり書いてあると。ですので、もうすぐ 10 年経ちますけれども、今までどおりずっと市がやり続けるのかということと違うのかなと。そもそもの目的がこうだったのだよということを、今日ここで一つオープンになったので、そこで一回考える時期に来ているのではないかと思うのです。

(コーディネーター)

機械式の駐車場を持ってらっしゃる浜松市さん。

(外部評価委員)

浜松市も機械式の駐車場、200 台規模のものを持っております。これは中心街と言いましても、どちらかという国・県の庁舎のすぐそばにあるものでございまして、やはり採算が取れませんので、今、市の計画では休止するという計画になっております。なぜ廃止しないかと言いますと、国の補助金が入っているものですから、すぐには廃止できないということで、とりあえず休止にしようかと、今、検討段階でございまして。ただ、これはあくまでも浜松市の例ですので、新潟市さんのほうで中心商店街の活性化にどうしても西堀駐車場が必要なのだということであれば、また話は別なんでしょうが、浜松市の場合は他の委員もおっしゃったように、民間の駐車場がかなり余ってきておまして、民業圧迫になってしまうというものもございまして、中心部はかなりダンピングで、1 日とまっても 700 円、800 円というところも周辺部では出てきていると。ですので、そういったことも踏まえて、今、市の駐車場で採算が取れないところはやめていこうと。採算が取れるところでお金を稼いで、借金を返そうと。今、そういう状況になっております。

先ほどの委員が市の投資額 4,000 万円とおっしゃったのですが、資料を平成 21 年度からは 1 億 3,000 万円ほど出されているということによろしいですか。収支部分ということで、設備投資部分もプラスで駐車場会計に繰り入れていらっしゃるものですから、市の持ち出しとすると 1 億 3,000 万円というものも、設備投資部分も税金から払われているということですよ。

(外部評価委員)

それを差し引くと大体 4,000 万円です。

(外部評価委員)

4,000万円くらいになるのですか。

(外部評価委員)

赤字がです。純粋な委託料と駐車場部分との差額を切り上げまして。

(コーディネーター)

数字が違えば言うてくださいね。

(外部評価委員)

よく分からなかったので、すみません。

(外部評価委員)

私のほうとしては地理感がないので質問させていただきたいのですけれども、資料1-15のほうで、古町周辺の有人駐車場料金の状況というのがあるのですけれども、そもそもここに列記されている駐車場が近隣駐車場というように書かれているのですけれども、どういう基準でピックアップされたのか。例えば三越さんから歩いて何分くらいですという基準でピックアップされたのかどうかということを教えていただきたいと思います。

私の質問の趣旨としましては、先ほど地下駐車場のメリットの一つが雨とかそういうことを避けつつ、すぐ古町のほうに到達できるということで、すごく近いというようなこともあわせてメリットとして強調されているのかと思ったのですけれども、ほかのところに移ることによって、ほかの駐車場を使う方にとって負担感みたいなものが生じるのかどうかを知りたいと思って質問させていただきました。

(説明者)

特に歩いて何分とか、距離がどうだという基準ではなくて、西堀地下駐車場を議論するに当たって、比較対象になる近いですとか、規模が似ているだとか、そういったところを挙げているという理解でよろしいかと思います。

(外部評価委員)

機械式を外して、駐車場維持管理人の数を減らす場合はどのくらいのコストが削減されるかということを試算されたことはあるでしょうか。

(説明者)

仕分け調書の事業の内容のところにも若干触れてあるのですけれども、駐車場管理費1億円のうち、主な内訳として人件費が3,300万円というのがありますけれども、この辺が誘導ですとか、会計といいますか、集金をする際の人件費でございますので、完全無人化、機械化にすれば、3,300万円というのはいくら減ってくるだろうと思います。

(外部評価委員)

私が一番大きく懸念するのは、新潟市が西堀地下駐車場を閉鎖するというようにした場合の社会へのインパクトなのです。大和が閉店しましたよね。そして、例えば駐車場も閉鎖するとなると、これはだめなのではないかという負のスパイラルが働く可能性があって、ますます古町から店が逃げたり、企業が逃げたりする部分が出てくると思うのです。です

から、差額の部分で確かにお金はかかるかもしれませんが。赤字は埋めなければいけないのですが、問題は社会的なインパクト、経済的なインパクトなのです。そこが先ほどの委員が言われた雨宿り代で 4,000 万円ということもありましたが、もしコストがもう少し削減されて、仮に雨宿り代で 2,000 万円、1,000 万円であっても、社会的なインパクト、経済的なインパクト、新潟市はとにかく西堀ローサはしっかり守るよ。ここは商店街としてきちんと発展させていくよということを市民に見せるという意味もありますので、逆にこの駐車場をやめるということは、ある意味、すべてがメリットではなくて、そういう社会的なインパクト、経済的なインパクトのデメリットもあるので、その当たりがなかなか計算が難しいのですが、どのようにお考えでしょうか。

(説明者)

昨今、この古町については大和さんの撤退だけではなく、例えば北光社さんですとか、マクドナルドですとか、山下家具さんの再開発事業の計画見直しですとか、そういったニュースというものがずっと出ていて、あまり明るいニュースがなく、そんな中で新潟市が、行政がそこにあった行政の駐車場を廃止するということは、委員がおっしゃるとおり、ものすごいインパクトといたしますか、言葉を借りるとダメージになるのかということは想像しております。

(外部評価委員)

その辺は、この場ですぐこういう影響があるといったことは軽々には語れませんので、よく皆さんで有識者の間で相談していただいて、抜本的に見直していただければと思うのです。もし、選択肢の中でどうしても駐車場が続けられなくなれば、別の飲食店街でもいいのではないかと思うくらいに、ぜひ柔軟な発想でやってみてください。

(説明者)

よろしいですか。委員の先ほどのご意見の中で、毎年 4,000 万円というようにお話がございましたけれども、事業仕分け調書のコストの欄を見ていただくとよろしいのかと思うのですが、財源内訳のところの一般財源というところが、いってみれば駐車場会計に占めるお金で、駐車料金で賄いきれない部分だということで、税金を使っている部分ですよという意味合いなのですけれども、例えば平成 20 年度決算であれば、1 億 3,900 万円ですと。このうち、委員がおっしゃったように、設備投資の部分、起債の償還部分を除いた話ですよとおっしゃるということであれば、その数字としては平成 20 年度決算では 500 万円くらいになりますし、平成 21 年度については 200 万円くらいになると。おっしゃるように、平成 22 年度については、3,500 万円くらいになるということです。

(外部評価委員)

ただ、今は落ち込んでいるので多分そういうことだろうと、それはだれでも分かります。一応、イメージとしてはそうなのです。

(外部評価委員)

二つほど伺いたいと思います。一つ目は、先ほど出たのですけれども、暗いニュースば

かりだと。私は、先ほどからずっと目的というところを見ていたのですけれども、古町の再活性化をしようじゃないかという話ですよ。そのために、この駐車場がどうやったら明るいニュースになっていくのかを考えてほしいのです。先ほどの委員が言われたように飲食店街になってしまうという発想になりますので、ここでぜひ明るいニュースを出してほしいのです。今すぐというわけではなくて、これだけの予算をかけてでも、そして削減もやっていけるのだと。削減を見直しつつ、市民にできるだけ明るいニュースを出してほしいのです。そうしないと、やはり古町、西堀はだめじゃないかというようになると思うのです。そうならないようにしてもらいたいのです。そのために、明るいニュースをぜひ出してもらいたいということが一つ目です。

二つ目なのですが、本当に償還期限の問題があるので何とも言えないのですけれども、十何年もすれば償還期限が来るわけです。そのときに、先ほどの委員からも言われましたけれども、スラム化したりという可能性は絶対に避けられなくなってしまうのです。どうなっていくのか。結局最後は、少し重い課題になるかもしれないのですが、古町の将来を担っているのだというくらいの大胆な勇氣ある行動を、ぜひここで考えてほしいということなのです。

これは本当に大きな問題で、昨日の夜から考えていたのです。どうしたらいいのだろうと。それでこの場所に座っているわけなのですが、結局最後はここに行くのかなと。明るいニュースをできるだけ市民に提供できるようにしていただいて、それでいてかつこの駐車場があればやっていけるのだと強い勇氣ある行動をぜひ示してほしいなど。そうであるとすれば、逆に支持します。大いにやってもらってもいいという感じがします。逆に言えば、早く出していただいて、いろいろなことがあると思うのです。そうしたら、先ほど他の委員からも言われましたけれども、有識者を招いてやるのであればどういった形でもいいと思うのです。審議会を臨時的に立ち上げて、そういう場所を作って、すぐには結論は出ないと思うので、こういった期間でやらせてもらうのでお願いしますという形で、一つ一つステップバイステップで上がって行って、できるだけ明るいニュースを出してほしいと。このまま撤退続きだと困るわけです。このままいろいろなお金がいっぱい市税で投資されて、結局終わって見たら何だったのだといったら石を投げられるような感じになっていくわけです。だから、できるだけこの辺は危機意識を持ってもらって、かつ明るいニュースを出してもらって、それでぜひ市民を元気づけてほしいのです。

(コーディネーター)

熱い要望よく分かりました。

では、評価シートのほうをお願いいたします。ご記入いただけますか。ちなみに取得費用は地方債を発行してやっているわけですよ。これは別の用途に変えることはできるのですか。このために債券を発行して駐車場を整備しましたと。平成33年まで駐車場以外の用途は。

(説明者)

駐車場事業債として借りていますので、駐車場以外の用途には。

(コーディネーター)

飲食店にはできない。

(説明者)

転用するとなると、繰り上げ償還を。

(コーディネーター)

するということですね。

(説明者)

はい。前提の話だと思います。

(コーディネーター)

今の制度上はそういうことですね。だから、駐車場のままやめるとか、そういうことはできるにせよ、駐車場以外の用途にできないと。そのためには、残りの13億円くらいを繰り上げ償還してということなのですね。

(説明者)

そういうことです。

(コーディネーター)

法制度上はそうですね。

(外部評価委員)

古町活性化債でも出して。

(コーディネーター)

なるほど、市民債ですか。

(外部評価委員)

今、有識者という話もあったのですが、もちろん有識者も大事ではありますが、なぜ古町に来ないか。普段古町を利用しない人たちの意見を聞くということは非常に重要かと思うのです。なぜ、亀田のほうのイオンに行っているのかとか。基本的に、亀田のイオンができてから、古町の人通りが急に減ったような気がするのです。そうすると、ライバルはあそこなのです。あそこへ行く人がなぜ古町に来ないかというところから考えていってまちづくりをしていかないといけないと思いますし、まだまだ新潟に出店してない店というのは結構あります。思い切ってどこか民間に任せるということも、上の商業施設の部分も含めて考えられると思うのです。先ほどから言っていますけれども、大和を中央区の区役所に切り替えるとか、本当に新潟市はここを捨てないよという意思を徹底的に見せるということ、そしてこれを新潟以外のところにも見せるということをしていかないと、時代が非常に悪い時代ですので、今まで以上にいろいろなノウハウを集めて、そしてまた調査の方法もいろいろな調査の仕方を進めて、本当に正しいデータを得るような形で、そして施策のほうを作っていただきたいと思います。

(コーディネーター)

では、評価のほうをお聞きします。

1番、不要2名ですね。

2番、民営化1名。

3番、国・県・広域、ゼロ。

4番、市の実施（民間活力拡大）、ゼロ。

5番、市の実施（ただし要改善）、4名。

6番、現行どおり市の実施がゼロということです。

5番の市の実施（ただし要改善）ということでございます。いろいろ意見も出尽くしておりますが、まとめということで一ついただけますか。

（外部評価委員）

さまざまいろいろな意見が出まして、とにかく先ほどと違って、会場の中も非常に熱気があって、それくらい新潟市民にとって身近な問題かと思えます。西堀ローサの事業をどのように変わっていくかということは、まさに新潟市が一番試される一つの大きな事業かと思えますので、実際に結論としては廃止という意見もあれば、市が今までどおり実施、修正しながら実施という意見に分かれています。多分皆さん思うところは一緒で、どのように古町を再活性化していくかというところに関心があると思えますので、ぜひ今までにないノウハウをいろいろなところから拾って、有識者だけでなく、一般市民の声も広く聞いて、いろいろな角度から分析して、事業を慎重にかつ果敢に攻めていただきたいと思います。

（コーディネーター）

ありがとうございました。では、西堀地下駐車場の事業仕分けをこれで終わります。